

日本天文学会早川幸男基金渡航報告書

2007年12月10日採択

申請者氏名	岡 明憲 (会員番号 4970)
連絡先住所	〒 270-2203 千葉県松戸市六高台 6-35
所属機関	東京工業大学
職あるいは学年	D2
任期 (再任昇格条件)	
渡航目的	研究集会でのポスター発表
講演・観測・研究題目	The evolution of the location of the snowline in protoplanetary disks
渡航先 (期間)	ドイツ (2008年2月18日～2月22日)

2008年2月18日から22日にかけて、ドイツ・ボンで開催された冬の学校、WE Heraeus physics school “ The Early Phase of Planet Formation ”に参加させていただきました。この冬の学校は、タイトルにあるように惑星形成の初期段階をテーマにしたものであり、16名の世界的に有名な研究者による講義がなされました。参加学生の数は約60名であり、学生によるポスター発表が講義の合間に行われ、私自身も「The evolution of the location of the snowline in protoplanetary disks」というタイトルで発表してきました。

講義では、円盤進化に関する基本的な物理から最先端のトピックまで学ぶことができました。それぞれの講義は非常にユニークで面白く、例えば光泳動に関する講義では、実際に光泳動の起きる様子を実験で確かめ、光泳動の効果が強く表れるための条件を実際に見て確かめることができました。また、惑星形成に関する各分野の著名人の話を聞くことができ、非常に刺激的な毎日でした。

ポスター発表では、自分の研究を他国の学生や研究者にアピールすることができ、非常に有意義でした。特に、自分と似たような計算手法を使って原始惑星系円盤の構造を計算しているドイツ人の学生がいることが分かり、非常に驚きでした。彼とはお互いの計算手法について非常に有意義な議論をすることができました。自分の競争相手となりうる人との議論を通して自分の計算コードの優位性がどこにあるのかを知ることができ、非常に大きな収穫になったと思います。

また、当初の目的であった、自分の計算コードのアルゴリズムの開発者であり、原始惑星系円盤の進化の研究の第一線に立つ Dullemond 博士に会い、自分の研究をアピールできたことも大きな収穫でした。

さらに、外国人の学生と食事をともにし、多くの友人を得たことも大きな収穫でした。彼らから各国の学生の研究生活について知ることもできたし、外国の若手研究者との付き合い方も学べたと思います。彼らの日本の若手研究者との違いは、彼らは英語に非常に堪能であり、英語での議論に慣れていることです。世界を相手に研究をアピールしていくには英語ができなければならないと実感しました。

以上のように、ドイツの冬の学校では非常に刺激的で有意義な5日間を過ごすことができました。惑星形成の最先端の分野についてもさることながら、これから一人前の研究者として成長していくにあたって非常に重要なことを学べたのではないかと思います。最後になりましたが、ドイツへの渡航費用の援助をしていただきました早川基金及びその関係者の方々に心から深く感謝いたします。